

学校力向上に関する総合実践事業 第1回 学校カアドバイザー研修

平成27年7月21日名寄小学校にて、上越教育大学教職大学院 赤坂真二教授による教育講演会が行われました。

■講師

学校力向上に関する総合実践事業アドバイザー

上越教育大学 教授 赤坂真二氏



新潟県内の公立小学校に19年間勤務。2008年4月より本学に着任。小学校教員の頃より、子どもの欲を高める学級づくり、授業づくりについて全国各地のセミナーで発信してきた。現在も、教員養成にかかわる一方で研修会やPTAの学習会で講演を行う。

【担当コース】

- ・教育実践リーダーコース
- ・学校運営リーダーコース

【担当講義】

- ・勇気づけの学級づくり論

【プロジェクトテーマ例】

- ・学級経営を基盤とした学力向上

- ・協同的な学習による授業づくり
- ・話し合い活動等による自治的集団の育成
- ・学級に対する適応感を高める学級づくり
- ・学級の良い人間関係、あたたかい雰囲気凝集性（まとまり）を高める学級づくり

以上 上越教育大学HPより抜粋

■演題 「学級集団を育てるリーダーシップ」

■講演の概要

「学級集団づくり」はほとんど学ばれていない。大学の教員養成でも、「学級集団づくり」は学ばれていないのが現状である。学力・学習状況調査の都道府県別結果が公表されるようになり、私への県教委等からの講演依頼の内容が、「学力向上と集団づくりの同時達成」から、「学力向上の基盤としての、学級集団づくりはどうあるべきか」に変化した。

教育実践の効果が上がるかどうかは、学級経営・学年経営・学校経営の問題。

「経営のしっかりした学校に落ち込んだ学級は少ない。」というのも事実。

「分からないから教えて。」と言える、安心して学び合うクラスが大切。子ども達は、安心して学び合うクラスでないと、非常に限定された範囲内でしか学ばない。もう一つは、課題解決のために「なにかできることがある？はい、喜んで。」という言葉で8割の子どもが当たり前と言える学級を目指すこと。

学力の向上は、学習意欲の向上が鍵を握っているといっても過言ではない。学力が下位の子達というのは、ドリル学習をやったり、個別学習をやったりすることだけで乗り切れることは難しい。何が重要かということ、教師とのあたたかな関係性であったり、仲間との友人関係だったりする。子ども達の意欲を上げるためには、学級づくり、つまり「雰囲気」が大切。要は、学級集団づくりを明るくやっていけるかということ。

「やる気を引き出すことに成功している先生がしていること」は何か。調査の結果から「教師が子どもに関心を持っている。好意を持って子どもに共感し、それにこたえていると感じているときに、子どもの学習意欲が高くなる。」ということがわかった。

つまり、先生の「子どものことが好きだよ。」という思いが伝わっていると、子どもはやる気になる。

【子ども達をやる気にさせるもっとも強力な動機付け】

- ・自分の児童・生徒を知るための努力をしている。
- ・児童・生徒といることを楽しむ。
- ・言葉や態度に、あたたかさがある。
- ・自己開示をしている。
- ・児童・生徒同士が知り合う機会を設定している。

教師が「あたたかい笑顔で、教室にたたずんでいる。」だけでも、子どものポジティブティが高まる。「笑顔」でいて損はない。子どものやる気が高まって、勉強をするようになれば、しかめっ面をしているよりも、ずっと、お得。だから、笑顔で授業をしていくということは、大事なこと。

「集団づくり力アップのための20ポイントチェック」などを、学級集団づくりの定期点検の物差しとして活用してほしい。一部のクラスでやるよりも、みんなで取り組んだ方が効果が出る。どこか一つの学級でやっても効果は薄い。個人で取り組むことと学校として取り組むことを決め、定期点検をして欲しい。